

カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネービス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2022年4月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

4月の東カリブ諸国機構（OECS）6カ国（注）の内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

（注：アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネービス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

1. 概況

●セントキッツにおいて、3党の連立与党に亀裂。うち2党が首相に対する不信任案を提出（注：5月に入ってハリス首相は解散総選挙を表明。8月11日までに総選挙が実施される）。

●グレナダのミッチェル首相は、国会解散・総選挙に向かう旨発（注：5月に入って同首相は解散総選挙を発表。5月16日に議会が解散され、6月23日に総選挙が実施される）。

（注：5月に入ってアンティグア・バーブーダのブラウン首相も早期選挙の可能性に言及。）

●エドワード英国王子（ウェセックス伯爵）がセントビンセント、セントルシア、アンティグア・バーブーダを歴訪。過去の英国奴隷制度への補償や共和制移行も話題に。

●カリブ諸国首脳（中国承認9カ国）は28日に王毅中国国務委員兼外交部長とオンライン会議を実施。また、29日にはカリブ諸国首脳はハリス米国副大統領とオンライン会議を実施。

●アンティグアで、日本のWOTA社が政府と水問題解決に向けた基本合意書に署名した。

●セントビンセントで、ベネズエラのペトロカリブ・プログラムが再開し、市場より廉価で石油供給が行われるとの報道があった。

●EUにおける投資による市民権プログラム（CIP／CBI）を実施する国に対する査証免除の扱いについて、各国は同プログラムの重要性を指摘。

2. 内政

(1) 新型コロナウイルス

- (2日ドミニカ国報道) 2日、観光省は、ドミニカ国への渡航者に対する渡航規制が4日より緩和され、ワクチン完全接種者については、到着前及び到着時のPCR検査が不要になると発表した。
- (2日アンティグア報道) 2日、内閣は、同国が新型コロナウイルスに対する安全を確保するには、さらに1万人がワクチン完全接種が必要と発表した。
- (3日セントビンセント報道) 2日、国家緊急管理機関は、3月29日に内閣が公共エリアにおけるマスク着用義務を撤廃したことに反して、マスク着用が必要と発表した。
- (4日ドミニカ国報道) 2日、観光省は、4日より、ワクチン完全接種者の渡航前及び渡航後のPCR検査義務を撤廃するが、未接種者は引き続き到着時検査が必要と発表した。
- (4日グレナダ報道) 4日、チャールズ主任医務官は、新型コロナウイルスに関する規制を同日付で撤廃すると発表し、今後は各個人がウイルスから自分の身を守るために必要な措置をとるようにと述べた。
- (5日グレナダ報道) 4日、ラグレナード総督は、緊急事態宣言を解除した。
- (8日アンティグア報道) 7日、内閣は13日より、ワクチン未接種の渡航者でも、3日以内のPCR検査証明があれば入国を可能とする旨発表。
- (12日セントキッツ報道) 11日、米国疾病予防管理センターが、同国を最低リスク国のレベル1に追加したと発表。
- (15日アンティグア報道) 15日、フェルナンデス観光大臣は、米国疾病予防管理センター(CDC)が、同国を渡航禁止対象国であるレベル4のリストから外したと発表。
- (19日セントルシア政府発表) 保健省は、国内で2件のオミクロンBA.2株の感染事例が確認されたと発表。
- (21日グレナダ報道) グレナダ保健省は、23日～30日にかけて実施予定のアメリカ・ワクチン・ウィークに参加する旨発表。
- (22日グレナダ報道) 中国大使館が保健省に対してワクチンを寄贈。
- (25日セントビンセント報道) セントビンセント政府は、汎米保健機構(PAHO)主催により、23日～30日にかけて開催予定のアメリカ・ワクチン・ウィークに参加する旨発表。

(2) その他内政

- (4日セントキッツ報道) 与党人民労働党(PLP)は次期総選挙に向けて8

名の候補者を発表した。3党からなる連立与党には亀裂が入っている。

(注) 連立与党：ハリス首相率いる人民労働党 (PLP)、リチャード副首相率いる国民行動党 (PAM)、ブラントリー外相率いる市民有志運動 (CCM)

● (12日アンティグア報道) 国防軍に航空隊が新設された。航空機が配備され、災害・緊急時対応、救難・捜索活動等に使用される。

● (13日アンティグア報道) 地元漁民は、政府が燃料補助金を提供するという約束を果たすよう要求して施設を封鎖した。内閣は3月23日、タクシー・バス運転手、漁民が同24日から25%の燃料補助金をバウチャーで受け取れることを決定していた。

● (14日セントキッツ報道) 政府は、日本の松原新大使を歓迎した。

● (15、16日セントキッツ報道) ハリス首相は、連立与党において政治的論争が生じていると述べた。他方で、リチャード副首相は、連立与党内の不和について警鐘を鳴らし、ブラントリー外相は、連立与党は解散の危機に晒されている、ハリス首相が権力を独占しており、透明性、統治、投資による市民権プログラム (CBI) の収入の比例配分といった問題を解決しようとする姿勢に欠ける等述べた。

● (17日セントビンセント報道) ゴンザルベス首相は右半身の耐え難いほどの痛みの治療のためベネズエラ (及び、おそらくキューバ) に渡航する。

● (20、21日セントキッツ報道) リチャーズ副首相は、ハリス首相の政策や連立相手に対する扱いには問題がある、自分達は総選挙を行うことを決定する選択肢を有している等述べた。また、同副首相や外相を含む6閣僚が、ハリス首相が内閣の大多数の支持を失ったとする書簡をシートン総督に提出。他方で、ハリス首相は多くは語らなかったが、自分は首相として国の安定、平和、平穩のため努力している、連立相手による問題提起については措置を講じており文書で回答している等述べた。(注：5月に入ってハリス首相は解散総選挙を表明。8月11日までに総選挙が実施される。)

● (24日グレナダ報道) ミッチェル首相は、間もなく国会を解散し、総選挙に向かう旨述べた。(注：5月に入って同首相は総督に対し5月16日付けで議会の解散を要請。6月23日に総選挙が実施される。)

● (25、26日セントキッツ報道) PAM党及びCCM党が首相不信任案を提出。同不信任案は21日以内に国会で審議され、可決された場合、首相は3日以内に辞職または総督に国会解散を助言する必要がある。国会解散の場合、首相は90日以内に総選挙を実施する。リチャーズ副首相は、3党による連立与党からハリス首相率いるPLP党が離脱しても、残るPAM党とCCM党の連立を維持する、総選挙になった場合は勝利する自信がある旨述べた。

● (26日セントビンセント報道) 右半身の治療のためベネズエラを訪れていた

ゴンザルベス首相が帰国。10日間同国に滞在し、うち4日間入院していた（翌日の報道によると、左手の指を治療）。また、25日に同首相はマドゥーロ大統領と会談した。

3. 経済

- （1日セントキッツ報道）ブラントリー外相は、2007年から21年まで投資による市民権プログラム（CBI／CIP）は、50億ドルの収入をもたらしたと述べた。
- （3日アンティグア報道）政府は日本のWOTA株式会社と水問題解決に向けた基本合意書に署名した。
- （5日セントビンセント報道）シーザー農業相は、FAO地域総会において、カリコム諸国とアンデス諸国の農業生産に関するパートナーシップ強化に関する決議案を称賛。
- （5日セントキッツ報道）台湾が、消防車購入のための資金としてハリス首相に小切手を手交した。
- （5日セントルシア報道）バナナの輸出先としてアンティグアの需要が確認され、3月末に460箱が初出荷された。
- （9日セントビンセント報道）モーガン赤十字代表は、スフリエール火山噴火より1年が経過したが、復興にはより一層の協力が必要であると述べた。
- （10日セントルシア報道）政府は、11日よりガソリン及びディーゼルを1リットルあたり、3.29から3.51ドルに引き上げると発表した。
- （11日セントルシア報道）チェン台湾大使は、エドワード教育相を訪れ、カリブ国家財政支援イニシアティブに3万ドルの支援を行った。
- （11日セントビンセント報道）シーザー農業相は、英国、マルタを訪れ、スフリエール火山噴火より1年が経過したことを踏まえ、在外国民よりの支援に対し感謝の意を示した。
- （11日グレナダ報道）FAO、UN Women、UNDP、ILOは、アンティグア、バルバドス、グレナダ、ドミニカ、セントルシアにおいて女性が農村経済をけん引することで農村開発及び貧困削減に寄与する政策支援のための3年間の事業を実施する。
- （12日アンティグア報道）本年第一四半期のサルガッサム海藻の発生は標準を上回るレベル。大西洋地域における発生量は昨年比63%の量であるが、東カリブ地域における漂着量は地域によって異なる。
- （12日ドミニカ国報道）ハリケーン・エリカやマリアで被害を受けたコリオート地区において150万ドルを投じた護岸工事が実施中
- （12日ドミニカ国報道）政府は、3月11日のガソリン価格引き上げ（ガロ

ン当たり 13.95 ドルから 14.89 ドル、ディーゼルは 12.95 ドルから 13.91 ドル) に対する支援策を検討中。

●(12日セントビンセント報道) 台湾の支援により 21年11月から4年間の予定で実施中の公衆衛生緊急対応システムプロジェクトによる、最初の研修モデルの引渡しが行われた。

●(13日セントルシア報道) 保健省保健環境局は、世銀のOECS地域保健プロジェクトより3台の車両を受領した。

●(13日グレナダ報道) 中国の支援により設置された青少年バスケットボールコートの開所式にコックス・インフラ開発相、ホンシャン中国大使が出席。

●(14日セントキッツ報道) アラブ首長国連邦(UAE)は、UAEカリブ再生可能エネルギー基金(カリブ諸国に対し総額5000万ドルの基金)より太陽熱利用型淡水化プラントを供与することで合意。

●(15日セントキッツ報道) ハリス首相は、会見の中で、投資による市民権(CBI)による歳入のネービス島への配分につき、世界銀行への調査依頼を交渉していると述べた。

●(15日セントビンセント報道) 漁業局の研究者は、乱獲によりカリブ地域におけるウニの生息が減っており、深刻な状況であると述べた。

●(17日ドミニカ国報道) 英国が強靱性構築を目的としてカリブ開発銀行、政府と共に橋梁建設及び上下水道整備計画のための2.39億ドル相当の支援を本年末までに署名予定。

●(19日グレナダ報道) 財務省は、21年第四四半期の投資による市民権(CBI)による収入は約1.04億米ドルであったと発表。

●(20日グレナダ報道) 公務部は、中国の支援により5月11日～31日の間、熱帯作物の総合的病害虫管理研修をオンラインで実施。

●(21日セントルシア報道) 台湾が実施中の青果物分野における生産－流通サプライチェーンの効率化プロジェクトの第1フェーズが終了した。

●(25日セントビンセント報道) ゴンザルベス財務相は、世界銀行と海洋資源管理を目的とした365万米ドルの無償資金協力支援に署名した。

●(26日セントビンセント報道) ベネズエラのペトロカリブ社は、セントビンセントの1.89億ドル相当の未払い石油代金を帳消しにすると報道。

●(29日アンティグア報道) 3月時点での全体の物価上昇率は前年比6.1%。

●(27日セントビンセント報道) ベネズエラは、北部地域に150のプレハブ住宅建設を支援。

●(27日セントルシア報道) ピエール首相は、議会に対し、2022年の予算スピーチを行い、経済指標につき、21年の成長率12.2%、22年の予測24.4%、21年の失業率21.9%うち37.0%が若者と述べた後、22年

の歳入13億ドル、歳出18億ドルの予算案を提出した。

●(28日セントビンセント報道) ベネズエラのペトロカリブ・プログラムが再開することで、ベネズエラからの石油ガスの輸入が開始する。同プログラムでは市場価格より35%安く石油ガスを購入することが可能。

●(28日セントビンセント報道) 政府は世界銀行より6800万ドルの支援を受けて新病院を建設する。

●(28日セントビンセント報道) 台湾は、12万米ドルを支援し、20の学校への奨学金に充てられる。

●(29日セントビンセント報道) ゴンザルベス財務相は、ペトロカリブより1.8億ドル債務減免を受けたことで、対外債務のGDP比は95%から88%に減少すると述べた。

4. 外交

●(1日アンティグア報道) ファルマウス湾に係留されているバミューダ船籍の豪華ヨット2船はロシアの富豪による所有であることが判明した。

●(4日アンティグア報道) ブラウン首相は、ジャマイカ政府が同国のスミス外相を次期英連邦事務局長に推薦しようとしていることに難色を示した。

●(4日ドミニカ国報道) ドミニカ国は、次期英連邦事務局長について、スコットランド現事務局長の続投を求めた。

●(11日付OECS発表) OECS諸国は2030年国際博覧会について、サウジアラビアを支持すると発表した。

●(11日アンティグア報道) 政府関係者は、ロシア籍のスーパーヨット2隻の処遇については、急がないと述べた。

●(12日OECS) ジュールス総局長率いるOECS委員会は、バーネット・カリコム事務局長の訪問を歓迎した。

●(13日セント Kitts 報道) 松原大使がブラントリー外相を表敬した。松原大使は、13日にシートン総督に信任状を捧呈した。

●(22、28日セントビンセント報道) エドワード英国王子(ウェセックス伯爵)がセントビンセントに到着し、政府に歓迎された。病気治療のため海外滞在中のゴンザルベス首相との会談は見送られる。過去の英国による奴隷制度に対する抗議活動が見られた。同首相は、前回チャールズ皇太子の来訪時に奴隷制への補償と奨学金について話し合われ、後者は実現した、この機会にダニエル副首相が補償について話し合うべきと述べた。

●(24~29日セントルシア報道) エドワード英国王子がセントルシアに到着、ヒレイヤ副首相他に迎えられた。ピエール首相は、将来セントルシアが共和制に移行する可能性を排除しなかった。また、英国による過去の奴隷制を批判し補

償を求める抗議活動が見られた。シャスネ野党代表（前首相）は共和制移行について「その時が来た」と述べた。

●（２５、２８日ドミニカ報道）スケリット首相はキューバを公式訪問する。ドミニカ政府は、米国政府に対して経済封鎖を解除するよう求め続けている。同首相は、キューバ政府から勲章（J o s e M a r t i A w a r d）を授与された。

●（２６、２７日アンティグア報道）ブラウン首相は、訪問したエドワード英国王子との会談で、過去の英国による奴隷制度への補償に関する対話を求めた。また、エリザベス女王二世の在位中は現体制を変えないが、将来的には共和制に移行する意向を示した。

●（２６日及び３０日セントビンセント報道）治療のためベネズエラに滞在していたゴンザルベス首相は、２５日にマドゥーロ大統領と会談し、東カリブ中央銀行の口座にあるＡＬＢＡ銀行への返済用資金９百万米ドルを使用する了解を得た。同資金は、漁船購入、魚市場（リトルトーキョー）やバスターミナルの改修等に用いられる。

●（２８日アンティグア報道）中国土木建設（ＣＣＥＣＣ）のコンクリート工場の粉塵により農作物や家畜が被害を受けたとして地元農民１名が中国大使館前で抗議。中国大使館の広報担当者は、中国大使館は常に中国企業に接受国の法令を遵守するよう求めている、本件が当事者同士の話し合いにより解決されることを望む旨の声明を自館ＨＰ上に掲載した。

●（２９日～５月３日各国報道等）２８日、中国カリブ外交樹立５０周年記念オンライン会議が開催され、カリブ諸国及びカリコム事務局に対する医療物資寄贈や中国・カリブ防災減災基金の設立、政府奨学金の拡大等が発表された。また、２９日にはハリス米副大統領が主催した米カリブ首脳会合にカリブ諸国首脳が参加し、コロナ禍からの経済回復、貿易、安全保障、外交政策、気候変動、エネルギー分野等が協議された。

●（２９日セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は今夏に台湾訪問を計画している。同首相は、我々は台湾海峡で紛争が発生した場合には声を挙げなければならない、台湾人の権利及びその統一性は尊重されなければならない、中国との問題は平和的に納めなければならないと述べた。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。